

まえがき

ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム (Software Engineering Symposium, SES) は、情報処理学会ソフトウェア工学研究会が主催する旗艦イベントとして 2006 年から毎年 1 回開催されており、本年度で 10 回目を迎えることとなった。今回は、慶應義塾大学日吉キャンパスにて 2015 年 9 月 7 日から 9 日までの 3 日間にわたり開催される。

ソフトウェア工学は総合的かつ実践的な学問分野であるため、基礎技術の開発と技術の実践とを独立して行っているだけでは十分な発展は望めない。理論研究に基づくソフトウェアの基本原則と過去の事例研究に基づく実証経験とを突き合わせ、研究者・実務者が密に連携し研究・技術開発を行う必要性が高くなっている。

今回の SES2015 では、このような問題意識に基づき、ソフトウェア工学の多様な技術分野に関して、産学の研究者・技術者・実務者間で活発な議論をできる場を提供することを目的とし、シンポジウム論文として 2 つのカテゴリ、研究論文、実践論文を募集した。研究論文はこれまでと同様に独創的な研究の成果を発表するもので新規性/独創性、有用性、正確さが重視される一方、実践論文は、ソフトウェア工学の実践事例や経験から得られた知見を発表するものであり、事例や知見としての有用性、正確さが重視される。実践論文には、研究成果を企業で実適用した事例の報告等、産学連携の取り組みの経験も含まれる。また、SES2015 では、新たな取り組みとして、自身の研究を多数の参加者に周知するとともに、有益な知見を得るための議論の場を提供することを目的として、査読のない論文を一般論文として募集した。

研究論文はフルペーパー (10 ページ以内) が 14 件、ショートペーパー (6 ページ以内) が 2 件の投稿があり、実践論文はフルペーパー (8 ページ以内) が 6 件の投稿があった。一般論文 (8 ページ以内) には、9 件の投稿があった。シンポジウム論文 (研究論文・実践論文) に対しては、3 名のプログラム委員による並列査読を行い、その結果をプログラム委員会にて慎重に議論した結果、4 件の研究論文フルペーパー、1 件の実践論文フルペーパー、9 件の研究論文ショートペーパー、3 件の実践論文ショートペーパーを採択した。

本シンポジウムでは、これらの論文発表に加え、基調講演に京都大学学際融合教育研究推進センターデザイン学ユニット特定教授/株式会社 SRA 先端技術研究所長の中小路久美代氏、日本電気株式会社ソフトウェア生産革新本部・主席品質保証主幹/上席ソフトウェアプロセス&品質プロフェッショナルの菅田直美氏をお迎えし、ソフトウェアシステムの機能と作用の関係、アジャイル開発における品質確保に関してご講演頂くこととなっている。さらに、ビッグデータとマーケティング、コードクローン研究に関するチュートリアルに加え、昨年度から設置した技術セミナーとして、ソフトウェアレビュー支援活動において効果のあった取り組みについての講演を予定している。

また、昨年度盛況であったポスター展示に関しても、10 件のポスター論文を採択しており、合計 35 件のポスター展示を予定している。ワークショップに関しては、昨年に引き続きテーマを設定した議論の場として討論テーマを公募し、4 件のワークショップを開催する。ポスターやワークショップでの活発な議論を通じて、研究者と技術者・実務者が連携するきっかけが生まれることを期待している。

最後に、情報処理学会ソフトウェア工学研究会運営委員、情報処理学会事務局、本シンポジウムの企画、論文査読、その他さまざまな準備作業に関わってこられた皆様に深く感謝する。

SES2015 プログラム委員長	大平 雅雄
SES2015 副プログラム委員長	斎藤 忍
SES2015 実行委員長	高田 眞吾